

4. ケアラー同士が交流・情報交換できる場の設置

(1) ケアラーズカフェ等の運営支援

施策内容	実施状況・今後の予定	事業の進捗状況 ○(概ねできている) △(準備中) ×(要検討・未着手)	方向性 →(継続) △(変更) －(終了)
①ケアラーズカフェや地域ボランティア主体のまちなかカフェについて、運営主体と意見交換を積極的に行い、持続可能な運営を支援します。	地域の居場所であるカフェやサロンを運営支援し継続的な開催ができています。支え手の減少が懸念されている今般、持続させるための協議が必要である。	○	→
評価（意見・要望）		施策の方向性	
施策内容① ・ 形体が出来、利用されている。安定していることは大変良いのでは。支え手不足には、具体的対応策があるようなので、実施されることを期待する。 ・ ボランティア団体が縮小の方向なので、個人ボランティアを増やすようにすると良いのではないのでしょうか。 ・ 良い。 ・ 「持続させる」 大事ですので、頑張りましょう。		ケアラーズカフェは、様々な人が集うコミュニティカフェの機能を持つ拠点になります。常連客以外の新規来客者がリピートしやすい環境づくりは、課題として受け止めております。解決策等を検討いたします。 子ども食堂の設置は、ヤングケアラーの支援につながる可能性があることから、今後の施策の参考にさせていただきます。	

(2) ふれあいサロン等の充実と推進

施策内容	実施状況・今後の予定	事業の進捗状況 ○(概ねできている) △(準備中) ×(要検討・未着手)	方向性 →(継続) △(変更) －(終了)
多世代の方が利用できるようカフェ利用者などのニーズに基づく施設環境の整備を進めます。	ふれあいサロンは、町内7か所で定期開催ができた。支え手の減少が懸念されている今般、持続させるための協議が必要である。	○	→
評価（意見・要望）		施策の方向性	
施策内容 ・利用者に好評のようなので、可能な範囲で続けてほしいです。 ・本当に支え手が不足していますね。これ以上どうしたらよいものか。 ・「持続させる」大事ですので、頑張りましょう。(再掲)		様々な地域活動での支え手不足の問題は、懸念されます。ボランティアの養成も含めて、関係機関とも協議し、対策を進めて参ります。	

5. 障がい者及び子育て支援の充実化

(1) 障がい者の支援

施策内容	実施状況・今後の予定	事業の進捗状況 ○(概ねできている) △(準備中) ×(要検討・未着手)	方向性 →(継続) △(変更) ー(終了)
①一人ひとりのニーズ・課題に的確に対応するため、総合的・専門的な相談支援機関(地域生活支援拠点)を設置し、安心して相談ができる体制を作ります。	・相談支援体制機関の整備は、現状の定期相談窓口及び役場窓口での相談体制における課題を整理し、より充実した相談支援体制整備に向けて検討を進める。 ・社会福祉士の配置により、保健師との連携支援体制の充実を図ることができ、一人ひとりに対する支援の充実に繋がった。 ・家族会との連携による、理解啓発の場としての講演会を実施することができ、当事者家族の支援につなげることができた	○	→
②身近な相談窓口として、民間事業所による「指定相談支援事業所」の立ち上げを積極的に支援します。			
③社会福祉士、保健師、精神保健福祉士、障がい者相談員(身体・知的)等と連携により、きめ細やかな支援の充実を図ります。			
④ピアサポート、相談会事業の充実のため、精神障がい者家族会よつば会と連携し、当事者・家族相互の情報交換や相談会等の取り組みを推進します。			
評価(意見・要望)		施策の方向性	
施策内容 ・障がい者支援については、あまり知る機会がないように思います。委員会などで実施した支援内容を、教えて頂きたいです。 ・障がいを持つ子供がいる親は「親亡き後」がずっと不安に思っています。その辺りも相談でき、将来の可視化できる体制があると有り難いです。 ・障がい者問題で情報が手に入らないのは、精神の患者さんであると思います。その点から医療機関との連携をどうするかということが求められます。(ヤングケアラーの親子さん)		今年度より、第6次障がい者基本計画がスタートし、共生の地域社会づくり等を基本目標として、障がい者に対する地域支援体制の充実や自立と社会参加の推進等の関連施策を定めており、計画内容については、町のホームページに掲載している	

	ほか、障がい者支援制度は多岐に渡る為、ガイドブックの作成や町広報での情報周知に努めております。 また、近年、窓口における相談内容は、障がい、子育て、介護、困窮者支援等、分野を超えて顕在化している状況であります。各専門職との連携を図りながら、包括的な相談支援体制の整備に努めて参ります。 なお、情報機器が急速に発達し、情報を得やすい社会となっています。しかしながら、一部の障がい者についてはその情報を得ることができなく、情報格差が生じている状況でもあります。 令和6年7月に、コミュニティ FM「エフエムくりやま」が開局いたしました。コミュニティ FM「エフエムくりやま」を活用した中で、福祉分野の情報発信に努めて参ります。
--	---

(2) 子育ての支援

施策内容	実施状況・今後の予定	事業の進捗状況 ○(概ねできている) △(準備中) ×(要検討・未着手)	方向性 →(継続) △(変更) ー(終了)
①妊娠期から子育て期にわたる様々な問題に対して、子育て世代包括支援センターにおいて、保健・福祉が連携して切れ目ない相談支援体制の構築を目指します。	子育てと親の介護のダブルケアや障がい児を持つ親の療育相談等、育児と介護の両方が重なったケースで、ファミリー・サポート・センターの利用を勧めたり、定期的に話しを聞くことで身体的、精神的負担が大きくなる前に孤立化しないような支援を実施した。	○	→
②就学前の特別な配慮と支援が必要な子どもに対して、子ども発達サポートセンターを中心に他の通所施設・保育園・認定こども園と連携し、子どもの特性に応じた支援を行うとともに、子どもの発達の基盤となる家庭支援を実施します。	昨年、「子ども家庭庁」が創設し、市町村における児童福祉及び母子保健に関し、包括的な支援を行う「こども家庭センター」設置の努力義務が明記され、本町も地域全体で子育て家庭を応援し、子育て中のケアラーが孤立しないよう、更なる支援体制の整備を行っていきます。		
③子どもや保護者が安心して学童期を迎えるために、保育園等から小学校への円滑な引継ぎが行われるよう支援します。また、各放課後児童クラブにおいて障がい児の受け入れを行います。			
④ファミリーサポートセンター事業により、子どもを安心して預け、保護者がリフレッシュすることができる環境作りを推進します。			
評価（意見・要望）		施策の方向性	
施策内容 ・孤立する妊産婦や学童クラブの子供たちの拡充とフォローは必要ですが、ケアラー支援策とは少し性格が違うのではないかと。 ・子育て支援については、妊娠期からのサポートで長期的な支援につながっていると思います。		子育て家庭が抱える複雑で様々な悩みに関して子育て世代包括支援センターを中心に、きめ細かく対応できる体制の整備に努めます。	

6. 国、道、関係市町村への情報発信及び要望

(1) 国、道、関係市町村への情報発信及び要望

施策内容	実施状況・今後の予定	事業の進捗状況 ○(概ねできている) △(準備中) ×(要検討・未着手)	方向性 →(継続) △(変更) - (終了)
本町が進めるケアラー支援について、他の自治体に情報発信し連携を図ります。また、ケアラーを支援するための法律の制定や財政的な支援について、国や道に要望します。	道内外の視察を受入れ、ケアラー支援について情報発信するとともに、北海道ケアラー支援推進協議会に出席した。	○	→
評価（意見・要望）		施策の方向性	
施策内容 ・本町のケアラー支援が注目され町外からの視察が多いようですが、今後は連携、情報共有などに活かしてほしいです。 ・財政的支援、とても大切です。今後の課題だと思います。		今後とも視察の受入れや、情報発信を行い、自治体とも連携しながら、ケアラー支援施策を推進して参ります。	

7. 施策に関する追加・修正等についての意見

評価（意見・要望）	施策の方向性
なし	